# 平成２９年度　技術講演会　プログラム

司会者　埼玉県地質調査業協会　技術委員　野入久幸

13:15～13:25　会長挨拶　埼玉県地質調査業協会　会長　越智勝行

13:25～14:25　演 題 １：荒川の河道変遷と氾濫特性の変化(仮)

講　　師：埼玉大学大学院理工学研究科　田中規夫教授

講演要旨：　約 400 年前の利根川の東遷、荒川の西遷は荒川中流部の洪水被害を頻繁なものとし、自然堤防上等に土盛をして建物を築造し洪水時に避難する「水塚」文化を発達させた。明治 43 年洪水の壊滅的被害を契機とした荒川下流部改修、大正 2 年洪水を受けての上流部改修により、荒川流域の洪水氾濫は激減した。しかし、カスリーン台風では西遷を行なった久下付近で決壊した。荒川の旧河道は大宮台地と武蔵野台地の間を複雑に蛇行して流れていたことから、旧流路跡と現在の荒川堤防が交差する箇所も多い。越流でない堤防決壊は旧河道など、昔の地形に係っている場合もある。そうした点も踏まえた上で、現在の荒川のもつ氾濫リスクを概観する。

14:25～15:25　演 題 ２：カスリーン台風から７０年～洪水から身を守るために～

講　　師：国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所　副所長　小栗幸雄様

講演要旨：　昭和 22 年 9 月に利根川や荒川の堤防が決壊し、未曾有の大災害となったカスリーン台風から 70 年を過ぎ、当時の大災害を振り返り、改めて水害の恐ろしさ、防災・減災の重要性を、記憶に新しい鬼怒川の決壊、昭和 61 年の小貝川の決壊等の状況を説明しながら、洪水から身を守るための取組を紹介する。

15:25～15:35　休　　憩

15:35～16:35　演 題 ３：埼玉県における土砂災害対策について

講　　師：埼玉県県土整備部河川砂防課荒川上流域砂防担当　主査　樋口佳意様

講演要旨：　埼玉県においては、近年、幸いにして人命にかかわる土砂災害は生じていない。

　しかし、土砂災害の恐れのある箇所は本県にも多数あり、７月の九州北部豪雨のような降雨量があれば、同様な大規模被害はいつでも起こりうる。また、厳しい財政状況や著しい人材不足の問題に加え、これまでに整備されてきた土砂災害防止施設の老朽化対策も必要となってきた。今回は、このような状況を踏まえた埼玉県の土砂災害対策について概説する。

16:35～16:40　閉会挨拶　埼玉県地質調査業協会　技術委員長　　阿部　博